

<目指すべき姿(目標・成果)>

- 産業再興支援【目標:産業人材の確保に加え、異業種交流による新たな事業展開を模索する。相双子ども科学祭来場者数 現状:700名 目標:800名】
- 次代につなげる人材育成【目標:地域への定着率を高めることに加え、医療人材など求められる人材の確保を図る。管内新規高卒者県内留保率^{②5}73.4% ^{②6}81.3% 目標^{②7}85%】
- 交流による地域の元気創造【目標:相双地域の現状を広く理解いただくため、地域間交流を促すことで交流人口拡大を図る。】

<管内の現状>

相双管内においては、未だ8万人を超える住民が県内外に避難を余儀なくされているほか、7町村が役場機能を町村外に移転。また、市町村によって、復旧・復興の状況やスピードが異なる。

このうち、川内村と広野町では避難解除を受けて住宅除染や事業所再開が進むなど、住民帰還の環境整備が進められている。

<主要インフラの状況>

- ・JR常磐線は平成26年6月より広野～竜田間が再開、相馬以北は平成29年春頃再開予定、平成27年1月より竜田～南相馬間代行バス運行開始
- ・常磐自動車道は、平成27年3月に全線開通
- ・東北中央自動車道相馬福島道路は一部を除き平成30年度供用予定。

<管内の課題>

- ①現状回復
- ②インフラ整備
- ③産業再生

放射性物質の除染や廃棄物の処理などの環境回復及び居住環境の回復、原子力災害を克服するインフラの整備や産業づくりなど地域全体の再生

「産業再興支援」、「次代につなげる人材育成」、「交流による地域の元気創造」を事業計画の柱と位置づけ、産業人材の誘致、地域情報の継続的な発信に努める。

<H27事業の計画>

①地域経営分

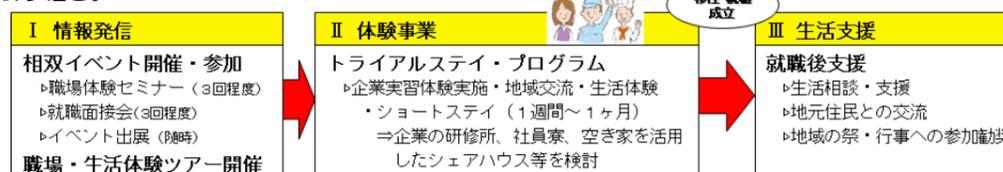
事業名:相双地域人材確保総合対策事業(事業費30,000千円)

【目的】

相双地域は避難による人口減少に加え、復興需要に伴う求人需要が急増し、全ての業種において人材不足が常態化している。
【有効求人倍率 相双管内2.12倍、全国平均1.15倍、福島県平均1.42倍】(平成27年3月分)
【相双管内2.12倍=有効求人数3,648人/有効求職者数1,719人】

特に製造業、小売サービス業、医療、福祉分野における人手不足が地域経済及び医療・福祉サービスの供給に影響を与えていることから、総合的な人材確保に取り組む。

【事業概要】



希望者に向けた滞在住居の確保
希望期間に合わせた職場実習コーディネート
滞在期間中に地域との交流の場設定

【ねらい】 人材不足を解消するため空き家等を活用した住宅提供を行うモデル事業とする。

【効果】 ①雇用・人材不足解消 ②受入基盤の整備 ③相双地域への移住者の増加 → 相双地域の産業・地域力向上

②過疎・中山間連携事業

事業名:相双子ども科学祭

・管内企業等による「科学実験」や「ものづくり体験」等イベント開催。
地域産業への関心を高める。



相双子ども科学祭2014 (テクノアカデミー浜)

③一般枠(民間等)

事業名:相双地区ヒューマンツーリズム推進プロジェクト

・「人」を観光資源とした「ヒューマンツーリズム」を実施し、企業研修等で活用する。



第7回ふくしま復興かけはしツアー

④市町村枠

事業名:記録と伝承、情報発信事業

・「まじい」な村づくりを行ってきた飯館村が避難を余儀なくされてから新たな「いいたて」を目指す記録集。飯館村4年間のあゆみ(イメージ)

